Spresense用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) Addon ボード

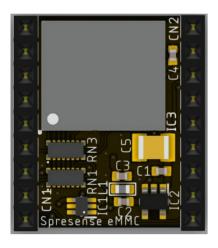
更新履歴

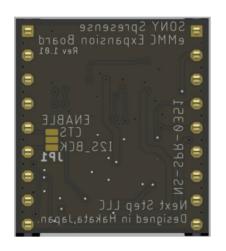
版数	更新内容	更新日
0.2	Refsを追加した。	2023/01/12
0.1	初版を0.1版とする。	2022/11/11

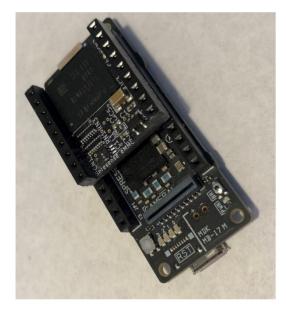
目次

- 1. Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) Addon ボード概要
- 2. eMMC(5.1) とマイクロSDカードとの比較
- 3. Spresense Arduinoビルド環境を準備する
- 4. eMMC動作確認
 - 1. eMMC動作確認纏め
 - 2. mnt/emmcディレクトリ存在するかを確認
 - 3. 高いサンプリングの音声録音
 - 4. 高いサンプリングの音声再生
 - 5. 高解像度画像の書き込み
 - 6. 高解像度画像の読み込み
- 5. UsbMscサンプルの動作確認
 - 1. 自動マウント認識
 - 2. 概要
 - 3. ログファイル読み書き
 - 4. ファイルリネームと削除
 - 5. ファイル新規
 - 6. 画像ファイル読み書き
- 6. eMMCからHostPCへZmodemでファイル送受信の動作確認
 - 1. 動作確認手順
 - 2. 動作確認例

Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) Addon ボード概要







eMMCについて

eMMCは「embedded Multi Media Card」の頭文字を取った略称で、「イーエムエムシー」と読みます。SSDと同様に、NAND型のフラッシュメモリを利用した内蔵ストレージの規格のひとつです。フラッシュメモリとは、電気を通してデータを書き込めば、自ら削除などを行わない限り、電源を切ってもデータが消えないメモリのことを指します。

Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) Addon ボードについて

Spresense 用のeMMC拡張ボードです。

Samsung SemiconductorのKLMAG1JETD-B041(eMMC 5.1 16 GB)を使用しています。

スタッカブルコネクターを使用していますので、通信ボード等の他の拡張基板 を段重ねできます。

詳しくは下記をご参照ください。 [Refs]

https://nextstep.official.ec/items/66602892

eMMC(5.1) とマイクロSDカードとの比較

パラメーター	еММС	Class10マイクロSDカード
消費電力	従来の最低電力消費SSD製 品に比べ 84%軽減された	少ない
価格	かなり高価	安価
転送速度	最大330MB/s	約10MB/s

詳しくは下記をご参照ください。

[Refs]

https://semiconductor.samsung.com/jp/estorage/emmc/

Spresense Arduinoビルド環境を準備する

1. 環境

- PC
 - Ubuntu 18 04
 - Arduino IDE:v1.8.13
- Spresense Arduino:v2.6.0
- Spresense メインボード
- Spresense 拡張ボード
- Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) AddOnボード

2. セットアップ

1. Spresense Arduino スタートガイドに記載の手順に従って環境を構築する ※Spresense Arduino環境インストール済みの場合は実施不要

3. ビルド方法

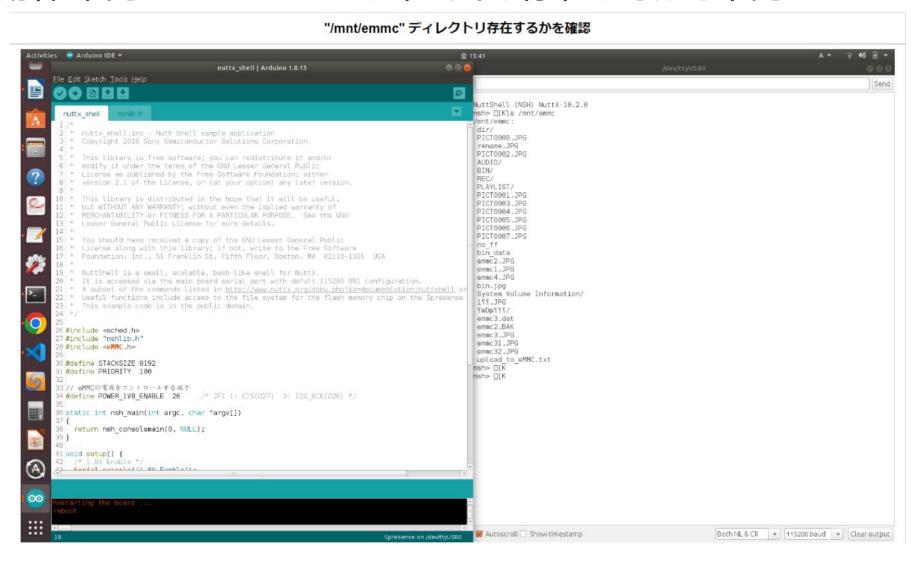
- 1. <u>Arduinoソースコードビルド方法</u>を参照して、 eMMCのExampleをArduino IDEで開いてマイコンボードに書き込む ボタンをクリックして、スケッチのコンパイルと書き込みを行います。
- 2. スケッチの書き込みが完了するまで待ちます。
- 3. スケッチの書き込みが完了すると自動的にリセットがかかってプログラムが起動されます。

eMMC動作確認概要

項目(eMMC型番: KLMAG1JETD-B041)	結果	備考欄
認識:する/しない (/mnt/emmcディレクトリ存在するかを確認)	OK	別途ソフトで電源ON対応必要 確認スケッチ: https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/nuttx_shell
ログファイルの書き込み (Spresense_eMMC_read_write.inoスケッチで確認)	ОК	確認スケッチ:
ログファイルの読み込み (Spresense_eMMC_read_write.inoスケッチで確認)	ОК	https://github.com/kaz19610303/SPRESENSE eMMC/tree/main/Test Program/Arduino IDE/Spresense eMMC read write
Spresenseを代わってファイルが残ること	OK	
高いサンプリングの音声録音(192KHz,MONO,16bit, 1時間録音して、10分ごとに分割して録音する)	ОК	確認スケッチ: https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/recorder_wav_192k
高いサンプリングの音声再生(192KHz,MONO,16bit, 上記の録音ファイルを再生する)	OK	確認スケッチ: https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/player_playlist_hires
高解像度画像の書き込み (1280×960)	OK	eMMCで保存されたJPGファイルを出力して、シリアルモニタにてバイナリファイルを確認して、 最初頭の部分はFFがついていることを確認済み 確認スケッチ: https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/camera_apitest
高解像度画像の読み込み (1280×960)	NG	zmodemでPCへ転送した後、ファイルを開くと、このファイルはサポートされていない形式のようです。"というエラーが発生しました。 zmodemは問題がありそうです。 確認手順: https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/Zmodem

別途UsbMscサンプルで確認して問題がありません。<u>こちらへご参照ください</u>。

eMMC動作確認:/mnt/emmcディレクトリ存在するかを確認



[Refs]

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/nuttx_shell

Spresense eMMC formatサンプルの動作確認

Spresense eMMC read writeサンプルの動作確認

概要

eMMC デバイスをフォーマットします。 eMMC デバイスを初めて利用する際に一度だけ実行してください。

概要

eMMC デバイス上のファイルを読み書きするサンプルです。

動作確認

[log]
1.8V Eanble
eMMC Initialize
eMMC FAT32 format
Success!!

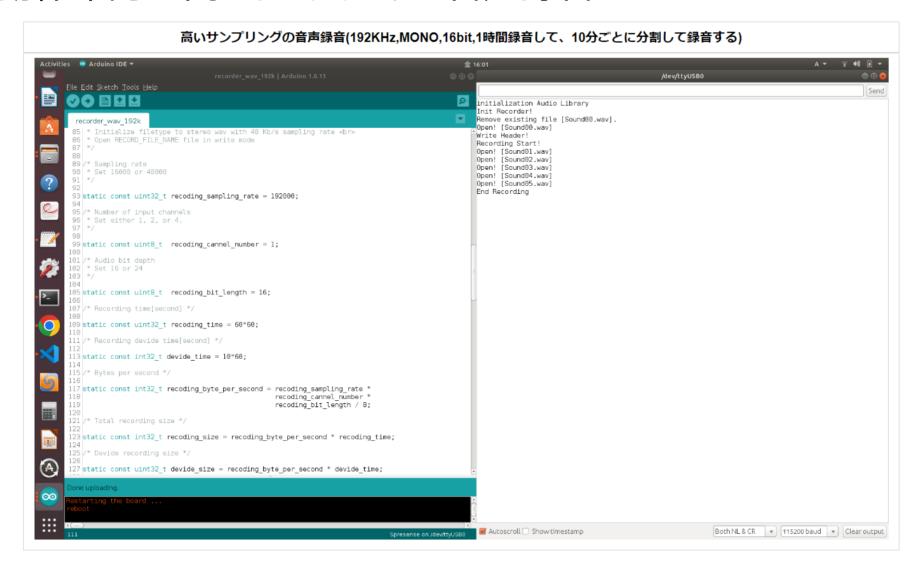
動作確認

[log]
1.8V Eanble
Writing to test.txt...done.
test.txt:
testing 1, 2, 3.

[Refs]

https://github.com/kaz19610303/SPRESENSE_eMMC/tree/main/Test_Program/Arduino_IDE/

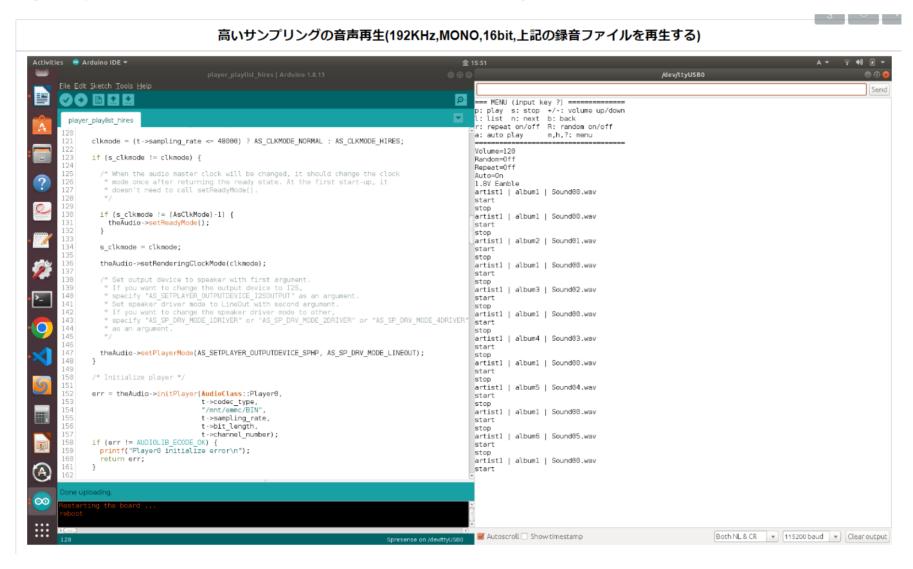
eMMC動作確認:高いサンプリングの音声録音



[Refs]

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/recorder wav 192k

eMMC動作確認:高いサンプリングの音声再生



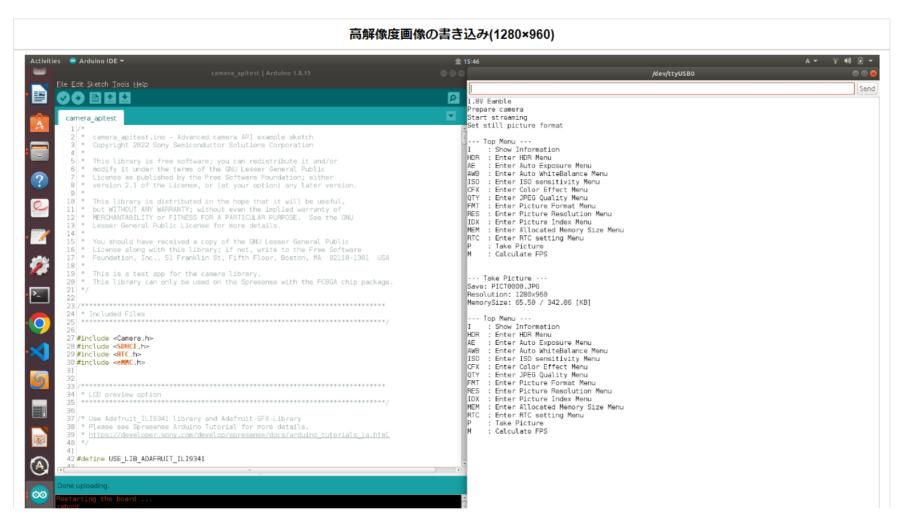
[Refs]

11

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/player playlist hires

eMMC動作確認:高解像度画像の書き込み

動作例



[Refs]

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/camera apitest

eMMC動作確認:高解像度画像の読み込み→こちらをご参照ください

UsbMscサンプルの動作確認:概要

概要

本サンプルはUSB MSC 機能のサンプルです。Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) AddOnボードを使用して、eMMC デバイスが PC 上のドライブとして マウントされ、PC から eMMC デバイスに直接アクセスすることができます。

使用方法

2本のmicro USB Type-B の USB ケーブルを使用する必要です。



操作方法

自動的にドライブとして認識されるまでまつだけ。

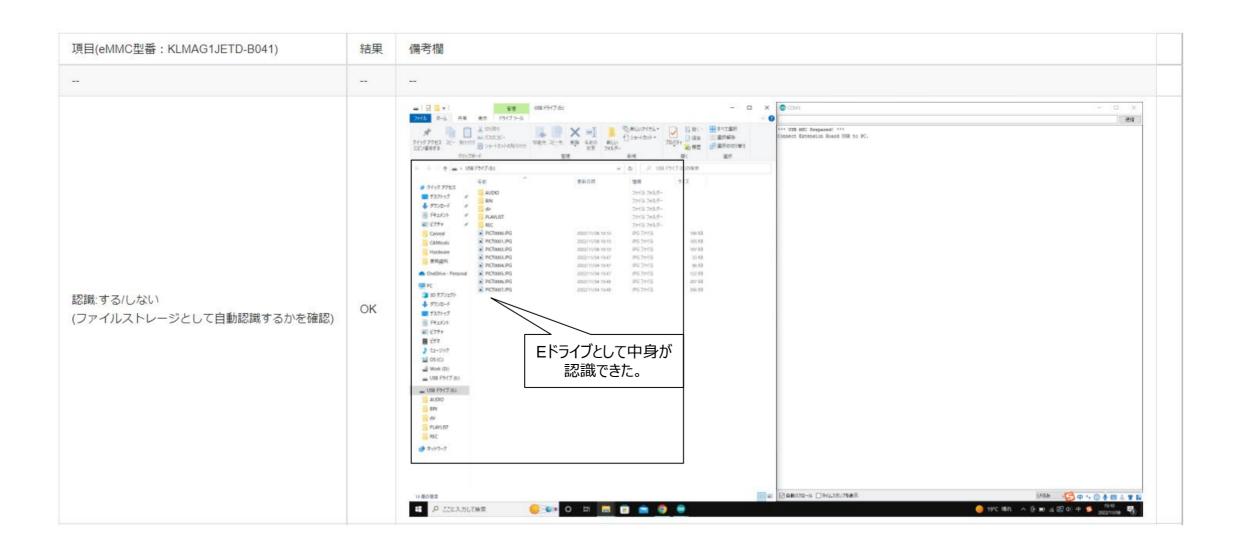
[サンプル]

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense-internal/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/UsbMsc

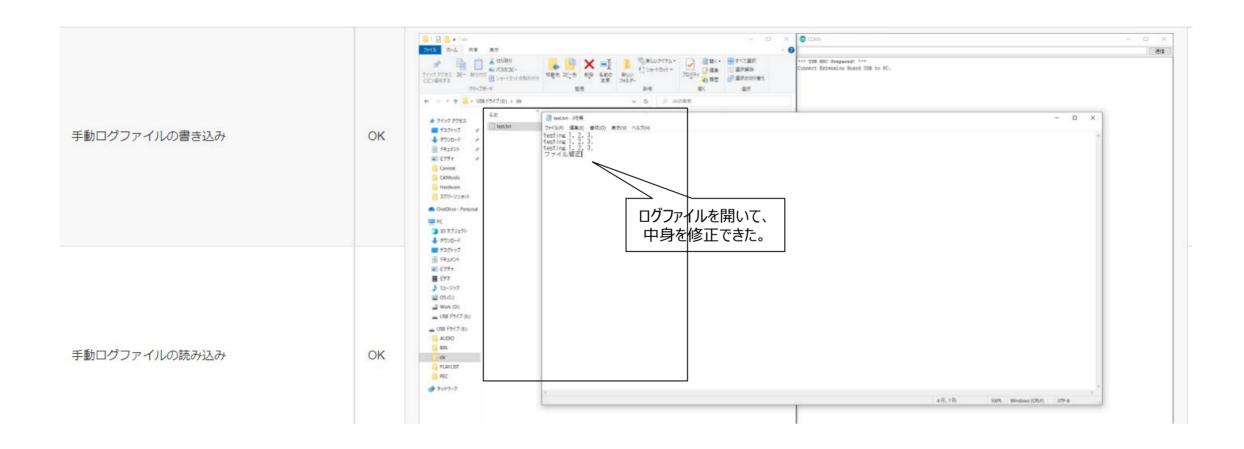
WindowsでeMMC UsbMsc.inoテスト纏め結果

項目(eMMC型番:KLMAG1JETD-B041)	結果
認識:する/しない (ファイルストレージとして自動認識するかを確認)	OK
手動ログファイルの書き込み	OK
手動ログファイルの読み込み	OK
ファイルをリネームできること	OK
ファイルを削除できること)	OK
ファイルを新規できること	OK
高解像度画像の書き込み (1280×960)	OK
高解像度画像の読み込み (1280×960)	OK

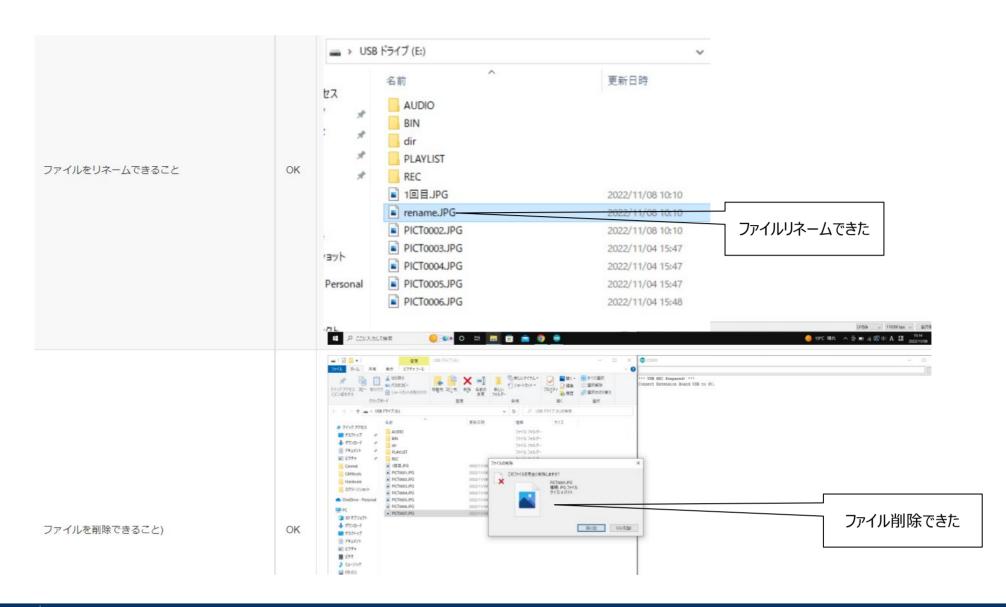
UsbMscサンプルの動作確認: 自動マウント認識



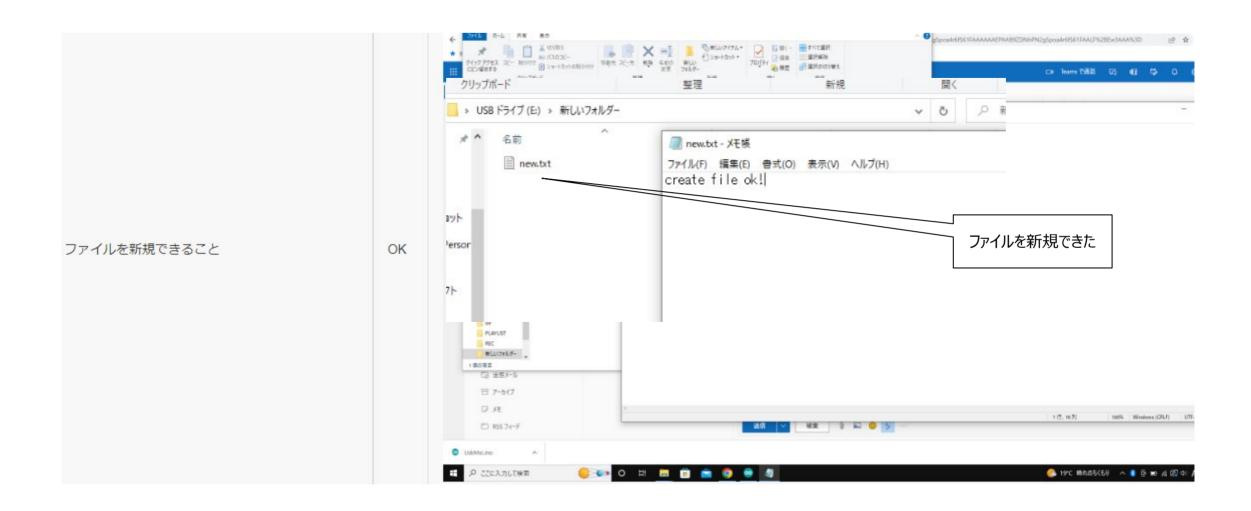
UsbMscサンプルの動作確認:ログファイル読み書き



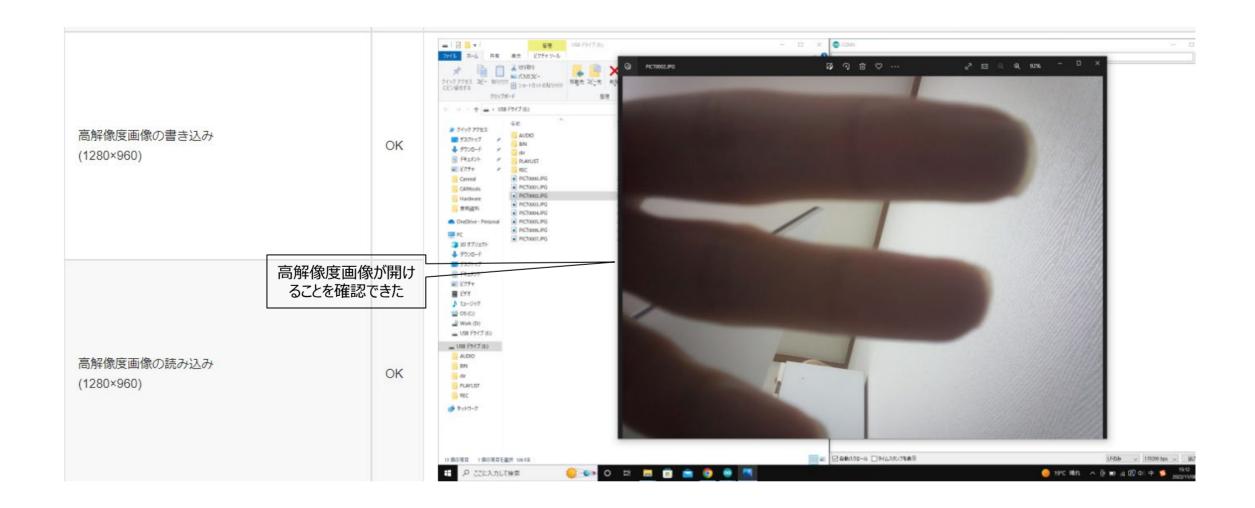
UsbMscサンプルの動作確認:ファイルリネームと削除



UsbMscサンプルの動作確認:ファイル新規



UsbMscサンプルの動作確認:画像ファイル読み書き



環境

- PC
 - Ubuntu 18 04
- Spresense SDK:v2.6.0
- Spresense メインボード
- Spresense 用 eMMC(KLMAG1JETD-B041) AddOnボード

セットアップ

- Spresense SDK スタートガイド (CLI 版)に記載の手順に従って環境を構築します。なお、Spresense SDK スタートガイド (CLI 版)環境インストール済みの場合は実施不要です。
- Zmodem 転送機能に対応したシリアルターミナルを使用してください。 ここでは、minicom を例にとって説明します。

minicom や Irzsz がインストールされていない場合は事前にインストールしてください。

sudo apt install minicom lrzsz

minicom を起動します。

minicom -D /dev/ttyUSB0 -b 115200

[Refs]

https://github.com/SonySemiconductorSolutions/ssup-spresense/tree/main/Arduino/KLMAG1JETD-B041/Zmodem

現時点でSpresense SDK(Ver2.6.0)が対応していないため、下記のファイルのcxd56 bringup()関数にeMMC電源ONと 初期化処理を追加します。

フィアルパス: spresense/nuttx/boards/arm/cxd56xx/spresense/src/cxd56_bringup.c。

```
#if defined(CONFIG CXD56 SDIO)
 CXD56 PIN CONFIGS(PINCONFS SDIOA GPIO):
 cxd56 gpio write(PIN SDIO CLK, false);
 cxd56 gpio write(PIN SDIO CMD, false);
 cxd56 gpio write(PIN SDIO DATAO, false);
 cxd56 gpio write(PIN SDIO DATA1, false);
  cxd56 gpio write(PIN SDIO DATA2, false);
  ret = board sdcard initialize():
#ifdef CONFIG CXD56 EMMC
 board gpio write(PIN I2SO BCK, -1);
 board gpio config(PIN I2SO BCK, 0, false, true, PIN FLOAT);
  board gpio write(PIN I2SO BCK, 1);
  usleep(100 * 1000):
  ret = board emmc initialize();
  if (ret != 0) {
    err("ERROR: Failed to initialize emmc. \n");
```

ビルド方法

1. sdk ディレクトリへ移動します。

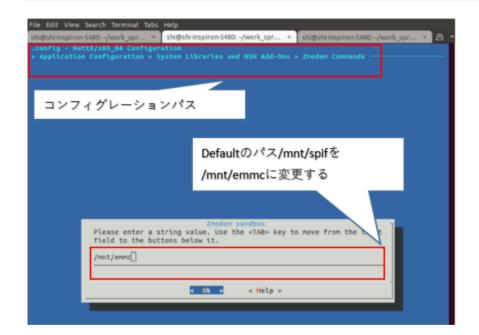
build-env.sh スクリプトを読み込むことで、config.pv ツールの Tab 補完機能が有効になります。

cd spresense/sdk source tools/build-env.sh

2. SDK のコンフィグレーションとビルドを行います。

引数に feature/zmodem device/emmc -m を指定してコンフィグレーションを実行して、下記のようにZmodemでSpresense上へ転送パスをemmcに修正する。

tools/config.py feature/zmodem device/emmc -m



22

ビルドに成功すると sdk フォルダ直下に nuttx.spk ファイルが生成されます。

make

3. nuttx.spk を Spresense ボードへ書き込みます。 この例では シリアルポートとして /dev/ttyUSB0 を、書き込み速度の baudrate に 500000 bps を設定しています。お使いの環境に合わせて変更してください。

```
tools/flash.sh -c /dev/ttyUSB0 -b 500000 nuttx.spk make
```

HostPC から eMMC へのファイル転送方法

1. minicom 上で CTRL-a を押下した後に z キーを押してメニューを開きます。(このショートカットキーの割り当てはユーザー側で変更可能です。詳細は minicom のマニュアルを参照してください。) 続けて s キーを押して Send files (ファイル送信) を選択します。



2 カーソルキーで zmodem を選択して Enter キーで実行します。



カーソルキーとスペースキーでフォルダを移動をして転送したいファイルを選択します。

```
------[Select one or more files for upload]
|Directory: /test
             (Escape to exit, Space to tag )
            [Goto] [Prev] [Show] [Tag] [Untag] [Okay]
```

もしくは、Enterキーを押してファイル名を入力して転送を実行することもできます。

```
[Goto] [Prev] [Show] [Tag] [Untag] [Okay]
```

4. ファイル転送が始まり、Transfer complete と表示されれば転送完了です。

```
------[zmodem upload - Press CTRL-C to quit]------
Sending: test00.dat
                   BPS: 11438
Bytes Sent: 286294
Transfer complete
READY: press any key to continue...
```

eMMC から HostPC へのファイル転送方法

1. NuttShell トで、sz コマンドの引数に転送したいファイルを指定して実行します。 ファイル名は/から始まるフルパス名を入力してください。 以下の例は、-x1バイナリ転送オプションを付けています。

```
nsh> sz -x 1 /mnt/emmc/test00.dat
```

2. ファイル転送が始まり、Transfer complete と表示されれば転送完了です。

```
------[zmodem download - Press CTRL-C to quit]-----+
Receiving: test00.dat
Bytes received: 286294/286294 BPS:9823
Transfer complete
 READY: press any key to continue..._
```

3. HostPC 上の minicom を実行したフォルダにファイルが転送されます